

桃大司書講習修了者をたずねて
エル・ライブラリー館長 谷合佳代子 さんに聞く



PROFILE

1982 年 財団法人大阪社会運動協会(社運協、2012年より公益財団法人) にて資料収集のアルバイトを開始
1990～92 年 桃山学院大学司書講習受講
2000 年 大阪府の委託により大阪府労働情報総合プラザの運営開始(社運協の非公開資料も公開可能に)
2008 年 橋下徹知事による社運協への補助金全廃、労働情報総合プラザの廃止が決定
同年 10 月 エル・ライブラリー開館、館長就任
2013 年 「第 15 回図書館サポートフォーラム賞」受賞
2016 年 「Library of the Year 2016 優秀賞」受賞

大阪市北浜の大阪府立労働センターにある大阪産業労働資料館「エル・ライブラリー」。

労働運動や社会運動の一次資料を多く収蔵する同館への評価は高く、2009 年に専門図書館協議会団体表彰、2013 年に図書館サポートフォーラム賞、2016 年には Library of the Year 優秀賞を受賞しています。

しかし、エル・ライブラリー開館までの道のりは平坦ではありませんでした。2008 年の橋下知事時代、同館の前身である財団法人大阪社会運動協会への補助金が全廃され、新たな図書館として荒波の中を再出発しました。「この資料を守る」と決断し、自ら館長に就任されたのが谷合佳代子さんです。谷合さんは 1992 年に桃山学院大学司書講習を修了され、2016 年からは司書講習でゲスト講師もご担当頂いています。

なぜ、司書になろうと思ったのか? 「一次資料を未来に伝える」を使命に奮闘する谷合さんはどんな方なのか? お話を伺いました。

2020 年 2 月取材



上: 図書館サポートフォーラム
賞受賞の際の電報
下: パザールの商品

エル・ライブラリー開館にあたって (Facebook より抜粋)

エル・ライブラリーは嵐の中を漕ぎ出した一艘の小舟です。けれど、漕ぎ手は一人ではありません。大勢のご支援の手を、その温もりを感じながら大波を漕ぎきる力をわたしたちは与えられました。そして、この小舟が載せているのは大きな宝物です。働く人々の記憶と記録という、次世代に手渡すべき宝の重みをわたしたちはしっかり受け止め、これからも前進をつづけます。

エル・ライブラリーのスタッフは、21 世紀のアーキビストたる自覚と矜持を持ち、資料を集め、評価し、組織し、保存公開し、情報を広く発信していけるよう精進を怠りません。まだまだ発展途上の小さな図書館に過ぎませんが、どうぞ、エル・ライブラリーを物心両面からご支援いただきますよう、お願い申し上げます。

皆様のご来館をお待ちしております。

2008 年 10 月 21 日

1. それまでは“自分は強い人間だ” という思い上がりがあった

日朝関係史をテーマにした卒業論文を書きあげ大学院進学も考えていた頃、財団法人大阪社会運動協会で『大阪社会労働運動史』編纂のための新聞記事の索引をつくることに。就職については「モラトリアム人間」だったという谷合さんは、ある日突然資料室を引き継ぐことになり、司書資格を取ることを決意する。妊娠出産とセットの司書講習の経験は、現在の「支えあう図書館」の原点かもしれない。



▲『大阪社会労働運動史』

■ 司書講習と妊娠出産

資料室の室長になったがお金の無い法人だったのでずっとバイトの身分でした。資料室のことを教えてくれる上司もいない状態で、大学院を出たばかりの前任者がお産のために辞めることになり、「私がやりましょうか」となった。

引継ぎは3日しかなく、資料室の責任者になったのと同時に、運動史の編集を始めた。どちらも誰かに教えてもらうことがなく、図書館学の「ト」の字も知らないまま、とりあえず目の前に資料と前任者の作った目録とを突き合わせ、図書館に行って学び、「なんとなくこういう規則か」という状態で何年間か過ごした。前任者の置いて行った分類表(NDC)は置いてあるが、全く手探りの独学で全体像が見えないので、これではいかんと感じていた。

どこで知ったかは思い出せないが、司書講習をやってるから受けてみようと思い立った。自宅から(桃大のある)昭和町までは自転車で10分くらいの距離なので、仕事が終わってから夜の講習を受け始めた。目から鱗が落ちるとするのはこういうことかという感じで、勉強するのがすごく楽しかったですね。歴史の人間なんて図書館概論の図書館史がめちゃくちゃ面白かった。文章を書くのが得意なので、図書館史のテストの時は一枚の解答用紙を全部埋めて「足りないから先生もう一枚下さい」と言うと、先生に「用紙を超えないようにしてください」と言われた(笑)。ムラムラとやる気に火が付いた感じで楽しかったけど、半分くらいのところで妊娠が分かった。つわりがえげつなくて、起

立性障害で立ち上がれなくなった。

翌年の講習では、一歳にならない子どもを連れて来たこともありました。預けたときも授乳しないといけないから、夫が車で連れて来てくれた。先生方と事務員には、授乳中で搾乳しないと乳腺炎になることを伝えて、書庫で搾って捨てました。休み時間に子どもと居ると、演習の同じグループの人たちが抱っこしてくれた。ほんまに皆に助けられてるなと思いました。それまでは「自分は強い人間だ」という思い上がりがあったけど、あの経験は良かった。



2年目も科目を取り残したので3年目も受講しましたが、これまた途中で妊娠してつわりが始まった。講習最後の試験は、這うようにして受けた。33歳で第1子、35歳で第2子。妊娠出産と司書講習は私にとってはセットなんで一生忘れません。そこまで苦労したから身についたような気がする。

いま子育てで図書館を休業している人が、すごく焦って図書館に戻りたいという人がいる。気持ちは分かるので、必ず図書館に戻れるからと励ましている。

2. 何かになろうと思ったことはない でも、何かになれるとは思う

2000年に大阪府の委託により運営を開始した大阪府労働情報総合プラザでは、これまで非公開だった資料が公開となり、工夫を重ねたことで利用者はそれまでの4倍になった。ところが、2008年に橋下徹知事の行政改革により社運協への補助金は全廃され、プラザの廃止が決定される。補助金の無くなったエル・ライブラリーの財源は、労働組合からの寄付に加え、サポート会員制度、古本の販売やバザーと多様。広報のためフルマラソンまで挑戦した谷合館長を突き動かすものとは？

■「この資料を守る」

橋下行政改革による補助金全廃に反対するために全国に要望書を送り、テレビ取材や新聞報道があったことで来館者も増えました。ただ、反対運動をしながら、同時に廃止後の準備をすすめるのは大変で痩せてしまった。撤回されることがないことが分かって腹を括ったら太り始めた（笑）。エル・ライブラリーの立ち上げを決めた時に頭に浮かんだのは、「ここに資料を預けたら永久保存してくれる」と信じて預けたおじいちゃん、おばあちゃんの顔です。あきらめる訳にはいけないと思いました。

就職については、私自身はモラトリアム人間で、司書になるつもりは全然なかった。何かになろうと思ったことはない。でも、何かにはなれるとは思います。結局、自分で「これになりたい」と思ってなったものは、このエル・ライブラリーの館長だった。

■ 一次資料があればこそ

橋下さんの指摘するように財政赤字の原因は公務員の賃金が高いからなのか、図書館で地方財政に関する本を借りてきて勉強しました（笑）。大阪府の決算書も読んでみた。そうすると、府の赤字の原因は、りんくうタウンと北摂の道路だということが分かりました。「公務員の賃金が高い」といった、特定の見えやすいところだけ叩くのは、世の中がルサンチマンに満ちているのを利用している。足の引っ張り合いや妬みは止めたい。騙されないようにするには知恵を付けなければならない。その知恵をつけるためのインフラが図書館です。やっと図書館に話が戻って

来ましたね（笑）。

「なんでこんな政策が出来たのか？」、「なんでこんな社会問題が起きたのか？」。一次資料があれば、そこに立ち返って検証することが出来る。研究があっても一次資料がなければ、検証が出来なくなってしまうので、草の根で民間のアーカイブズがやるしかない。



▲三池炭鉱の労働争議に関する資料が収納されたファイル。手書きの詳細な目録が付されている。

■ 反知性主義と闘う

Library of the Yearの大賞を選ぶプレゼンと決戦投票が行われた2016年11月、受賞の挨拶の直前にトランプが当選したというニュースが入り、マイクを前にこう訴えました。

「たった今トランプ大統領が選ばれたというニュースが入ってきました。反知性主義が跋扈してます。図書館は反知性主義と闘わないといけない。一等賞を競うのではなく、図書館界全体の底上げをしましょう。」

今も相変わらずトランプ大統領でけったくそ悪いですけど（笑）。ポピュリズムは1人、2人の力では止められない。一人で頑張らないでネットワークを作ることが大事です。

3. 図書館界の底上げを！

司書講習では公共図書館を主な対象として教えます。これからは公共図書館も生き残れるか非常に厳しい時代になっている。エル・ライブラリーのようないない図書館も含めて、図書館界が横つながりネットワークを作って、存在意義をきちんと発信していけるようにならないと、「もう図書館いらんし、司書もいらん」という話になってくる。現状が厳しいということを踏まえた上で、司書講習の受講生は図書館像、図書館員像を未来に向けて更新していった方がいい。それには、自分のことを知ることが大事。自分は何がしたいのか？何が足りないのか？自分が出来ることを差し出したら、きっと誰かが自分に足りない分を差し出してくれる。

■ 人と人を繋ぐ場として

たとえ非正規から始めても正規職の司書になることはできるが、そのためには自腹でセミナーを受けてステップアップしていかないといけないのが現状。正規・非正規を分断することなく学びの場を提供するための取り組みの一つとして、エル・ライブラリーで開いた図書館員向けのセミナーでは、国立情報学研究所で CiNii の開発に携わった東京大学の犬向一輝さんに「図書館員のためのデータベース入門講座」を2日に渡って10時～18時まで講義してもらいました（写真）。非正規の人でも来られる土日に開催し、昨年の司書講習の受講生も来ていました。

こうした取り組みをするのは、図書館界の底上げに寄与したい気持ちがあるから。エル・ライブラリーは資料を守るだけでなく、人と人を繋ぐ場でもありたいと思っているので、図書館員やアーキビストたちの研鑽の場としても使ってほしい。社会問題、NPO の活動の場としても人と人を繋いで行きたい。



▲講義の様子 2020.2.15～16

取材を終えて…

講談のように情景の浮かぶ話に引き込まれること3時間。文字起こしをしながら、エル・ライブラリーに資料の保存を依頼された方の話し口調や雰囲気までリアルに再現して見せてくれたことにあらためて驚く。そんな人たちの声や想いがアーカイブされている谷合館長の身体は、エル・ライブラリーそのもののなのかもしれない。

大阪産業労働資料館 Osaka Labor Archive エル・ライブラリー

開館時間

午前10時～午後5時
第1第3金曜日は夜8時まで

休館日

日曜日、月曜日、祝日
月曜が祝休日の時、その直前の土曜日



アクセス

地下鉄谷町線 天満橋駅から徒歩300m
地下鉄堺筋線 北浜駅から徒歩500m

「僕は木こりさんが大好きなんだ」

～思いを未来に繋ぐ図書館

エル・ライブラリーには、企業の労働関係の資料をはじめ、発禁となった『蟹工船』、横山ノック氏の選挙資料まで多様な一次資料が収蔵されている。様々な資料を紹介して頂いた中で、強く心を引かれたのが全林野労働組合の資料でした。

* * * * *

案内された資料室は、封を解かれていない段ボールの山に占拠されていました（写真）。全国の全林野労働組合（現：森林労連）の文化運動・国際交流の資料がここに辿り着いたのだ。自宅の庭にログハウスを建てて『全林野文化資料室』を守ってきた K さんだったが、病気で資料を維持できなくなってしまう。そんな K さんに懇願された時の様子を谷合先生が再現して下さいました。

「木村さんが車椅子に乗って不自由な体で泣いて訴えはるんです。『僕は木こりさんが好きでね。木こりさんは世の中の人からバカにされている。"お前たちは頭が悪いから木こりしかできない"と言われてた人達なんです。僕はそんな木こりさんが大好きなんだ。だから彼らが作った詩や写真や歌を集めてきました。全国を回って集めた木こり歌もある。なんとか助けて下さい。この資料を守って下さい』 聞いていたら、こちらも泣けてくるし引き取るようになった。」

谷合先生はライブラリーの立ち上げを決めた時、「ここに預けたら永久保存してくれる」と信じて預けたお爺ちゃん、おばあちゃんの顔が思い浮かんだ」と話して下さいました。当時と変わらない心意気、エル・ライブラリーの原動力に触れた瞬間でした。

